

第13講

随想・随筆(2) — 主題把握

要点整理

筆者の言いたいことをとらえる設問。問題文全体の読解に関する設問となるが、主題につながる表現箇所等に傍線が付されることもある。筆者の感動・意見の中心の把握が前提となる。

◎主要設問形式

- ・本文の主旨として最も適当なものを次の選択肢から選べ。
- ・この文章を通して、筆者は何を言いたいのか、説明せよ。

基本問題

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

中宮寺の庭は、誰にもかえりみられない平凡な庭だが、私はいつも不思議に心をひかれる。造園術と云ったものからはおよそ縁遠いように思われる無造作な庭で、何の奇もないが、あの清浄で柔軟な感じはどこから出てくるのだろうか。法隆寺境内と同じ地つづきであるから、砂まじりの地質に相違ないが、その上に改めて白砂を敷きつめたのである。この効果が大きい。塵ひとつ止めぬ、掃き目の正しい白砂の庭は、尼寺の純潔と優しさに一入と輝きを添えているようだ。誰の思いつきか知らないが、日光をこれほど適切に、柔かくうける方法はあるまい。海岸の砂地ならば日光は強烈すぎる。また大庭園ならば徒らにさらさらして下品な感じを与えるだろう。しかし中宮寺のような狭く薄暗いほどの庭では、実によく調和して、春の夜明のような仄かでおっとりした光線を生み出してくる。これは期せずして得られた無類の芸術的光線だ。

砂の光りと日の光りが、ゆるやかにもつれあって遊戯しているようにみえる。だから砂の上を歩むのがためられる。つい忍び足になる。足跡を残すのは罪悪のように感ぜられるのだ。翼がほしい。光りの戯れの中を軽く飛んで思惟菩薩のもとにまいりたい。こんな思いを抱かせる庭はおそらく他にないであろう。しかし人々は平凡な庭として気にもとめないでいるのだ。だから益々いい。

◎解法のポイント

- 見聞・体験を描いた部分と感想・意見の部分とを判別しながら読む。
- 主題を支える題材・文章表現の効果を考えながら読む。
- 筆者独自の心情・ものの見方、考え、もしくは一般的な見解と対立する考えなどが現れている部分に着目する。
- 随想・随筆という文章の性格上、主題が表現の裏に隠れている場合もあるので、筆者の心の動きをおさえながら読む。

私はこの庭をどう形容したらいいか考えてきたが、結局、「微笑の庭」と呼ぶのが最もふさわしいようだ。中宮寺の庭はたしかに微笑している。微笑なるがゆえに誰も気づかない。それは思惟菩薩の口辺に浮ぶ、有るか無きかの微笑の余韻かもしれない。恩寵かもしれない。また白砂の庭にふりそぐ日光が、ほどよく中和され、それが堂内に反射して思惟の姿に一層の柔軟性を与えていることも考えられる。思惟像はおそらくこの光りを滋養として吸収してきたであろう。

屢々中宮寺を訪れているうちに、私はこんな感想を抱くようになったが、しかし遠く離れて、心の中でこの尼寺を思い浮べるとき、とくに微笑のことが一番つよく思い出される。菩薩像も庭もすべてをふくめて、中宮寺全体が微笑の光りのなかに浮びあがってくる。そしてそれが次第に一つの思想に結晶して行くのである。私は戦争の終った秋この文章をかいている。二年間というものと大和を訪れる機会はなかった。硝煙と飢餓の都に住んで、最も憧憬したものは何かと問われるならば、私は微笑だと答えよう。それは戦争の現実の中で得られたかと問われるならば、遺憾ながら否と答えねばならぬ。更に日本の敗戦の理由を問われるならば、微笑の喪失にあったと答えたいのだ。私はこの言葉によつて何を求めていたか。必ずしも口辺に浮んだ微笑のみではない。精神の或る健全な姿を求めていたのだ。おのずから、繊細な心、深い思いやり、隠れた

愛情、慈悲、柔軟性、様々の表現を微笑という一語にふくめて、これを戦乱の
巷に求めていたのであった。そういう日の自分の念願には常に中宮寺の思惟像
があり、光りの庭が夢幻のように浮びあがっていた。私にとってそれは微笑の
泉のごときものであった。

古仏の微笑は云うまでもなく慈悲心をあらわしたものにちがいないが、これほど世に至難なものはあるまい。微妙な危機の上に花ひらいたもので、私はいつものはらはらしながら眺めざるをえない。菩薩は一切衆生をあわれみ救わねばならぬ。だがこの自意識が実に危険なのだ。もし慈悲と救いをあからさまに意識し、おまえ達をあわれみ導いてやるぞと云った思いが微塵みじんでもあつたならばどうか。表情は忽ち誇示たうし的になるか教説的になるか、さもなければ媚態びたいと化すであらう。大陸や南方の仏像には時々この種の表情がみうけられる。大げさで奇怪で、奥床しいところは少しもない。これは仏師の罪のみでなく、根本を云えば大乘の教の至らざるところからくる。思想の不消化に関連しているようである。

我が思惟像が、あの幽遠な微笑を浮べるまでには、どれほどの難行苦行があったか。そこには思想消化の長い時間があり、また生硬で露骨な表情に対する激しい嫌悪があつたにちがいない。古人のそうした戦いを、私は思惟像の背後に察せざるをえないのだ。美的感覚の問題もむろんあるが、その成長の根には信仰の戦いが必ずあつたであらうと思う。微笑は必ずしも心やかな時の所産でなく、却つて憤怒に憤怒をかさねた後の孤独な夢であつたかもしれない。

私は戦時中それをつぶさに感じた。粗野な感覚、誇示的な表情の横行に對して、つねに武装していなければ精神は死滅するかに思われた。真勇は必ず微笑をもつて事を断ずる。真の勇猛心は必ず柔軟心を伴う。だがこれは求めて得られざるところであつた。常に正しいことだけを形式的に言う人、絶対に非難の余地のないような説教を垂れる人、所謂指導者いっやうなるものが現われたが、これは特定の個人というよりは、強制された精神の畸形的きけいなすがたであつたと言つた方がよい。精神は極度に動脈硬化の症状を呈したのである。言論も文章も微笑を失つた。正しい言説、正しい情愛といえども、微笑を失えば不正となる。正しいことを言つたからとて、正しいとはいえないという微妙な道理をいやになるほど痛感したのである。

(亀井勝一郎「大和古寺風物誌」による)

(注) 中宮寺…奈良県生駒郡斑鳩町にある尼寺。建立は六〇七年とされる。思惟菩薩

…飛鳥時代の作。人々を救う方法を思索（思惟）する姿の仏像で、アルカイックスマイル（古典的微笑）の典型とされる。大乗…誰でも信仰があれば救われるとする、仏教の教えの一つ。

問一——線①「私はいつも不思議に心をひかれる」とあるが、その理由を「白砂」という言葉を用いて四十字以内で説明せよ。

問二——線②「結局、……最もふさわしいようだ」とあるが、どのようなことが「最もふさわしい」と思わせているのか、六十字以内で説明せよ。

問三——線③「それが次第に……結晶して行くのである」とあるが、「二つ

の思想」として適当でないものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 戦争の現実と微笑との関係についての思索の深まり。

イ 平凡な庭と微笑との関係についての思索の深まり
ウ 慈悲心と微笑との関係についての思索の深まり。

工 信仰の戦いと微笑との関係についての思索の深まり。「

問四 本文の主旨に合致するものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

が、戦争によってそれらの多くが失われることになった。

思惟像の浮かへる微笑に、精神を落し着かせる効果を持つており、
中の筆者の荒んだ気持ちをしぼしぼ和らげてくれた。

人々が正しく理解できなかったことで戦争が起こった。

工 精神の柔軟性を象徴する微笑を獲得することではないこと
とから、それは戦時中には失われることになった。 〔

次の文章は二〇一八年に発表されたものである。これを読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

50 45 40 35 30

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(注) 復帰：第二次世界大戦後、アメリカ統治下にあった沖縄が一九七二年に日本に復帰したこと。

ウチナーグチ：沖縄本島の方言。

糸満：沖縄本島にある市の名前。

海ぶどう：沖縄県や鹿児島県で食べられている海藻。ぶどうのような房状になる。

泡盛：沖縄県や鹿児島県で作られているタイ米を原料とした焼酎しょうちゅう。

ウチナンチュ：沖縄本島で生まれ育った人。

農連市場：那覇市にあった青果を主に扱う市場。

二〇一七年に、跡地に新しい市場ができた。

那覇バスターミナル：那覇市にあるバスターミナル。

二〇一八年に、跡地に新しいバスターミナルが完成した。

桜坂：那覇市にある、古い建物の残る街の名前。

牧志公設市場：那覇市にある肉や魚を主に扱う市場。

七十年以上の歴史を持ち、現在も営業している。

内地：沖縄県民から見た北海道、本州、四国、九州など。

おもしろまち：再開発で作られた那覇新都心の街の名前。

国際通り：那覇市にある大通りの名前。

南風原：那覇市に隣接する町の名前。

久茂地：那覇市の中心市街地の一つ。

五十八号線：沖縄本島を南北に貫く国道。

ナイチャー：内地から来た人。

スカッチブライト：スコッチブライトという商品名のナイロン製のたわし。

問一——線①「彼は、まぎれもないウチナンチュのひとりだ」と筆者が述べる理由として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 沖縄の古き良き伝統を守りつつ、内地の文化に染まってしまっているのが現在のウチナンチュだから。

イ 彼のような若いウチナンチュこそ、失われつつある「ほんとうの沖縄」を受け継いでいく存在だから。

ウ 古くからの方言や独特の文化についてよく知らない世代も、現代のウチナンチュだと考えているから。

エ 今は伝統文化をよく知らなくても、大人になるに従って沖縄の独特の文化になじんでいくはずだから。

「 」

問二——線②「『ほんとうの沖縄』は……わからない」とあるが、その理由を、「筆者」という言葉を用いて五十字以内で説明せよ。

◆ 演習問題 B ◆

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

55 50 45 40 35 30

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

85 80 75 70 65 60

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

115 110 105 100 95 90

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

125 120

ア 平凡な人間の枠をはみ出すことを恐れていたが、自分の奇妙な部分を
受容してもらって初めて、その奇妙な部分こそが愛すべき部分であるこ
とに気がついたから。

ウ 自分の「狂ってる」部分を愛してくれる価値観に触れ、奇妙さを受容してくれる世界はどこにでもあると思いがかり、奇妙さをラベリングすることは排除につながることに思い到らなかつたから。

□

六十五字以内で説明せよ。

[illegible][illegible][illegible]